(別添様式1)

未承認薬・適応外薬の要望

1. 要望内容に関連する事項

要望	☑ 学会						
者	一・ム (学会名;日本リンパ網内系学会)						
(該当す	□患者団体						
るものに チェック	(患者団体名;)					
する)	□個人	,					
	(氏名;)					
優先順	(УС) ,	1 位 (全 11 要望中)					
位							
	成 分 名	ゲムシタビン塩酸塩					
	(一般名)						
	販 売 名	ジェムザール					
要望す	会 社 名	日本イーライリリー社					
る医薬		日本臨床腫瘍学会、日本血液学会					
	国内関連学会	(選定理由)造血器悪性腫瘍治療薬であるので					
	未承認薬・適応外薬	- 1 · 3 · 3 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5					
	の分類	□ 未承認薬 適応外薬					
	(該当するものにチェ						
	ックする。) 効能・効果						
	(要望する効能・効果	再発・難治性悪性リンパ腫					
	について記載する。)						
	用法・用量	ゲムシタビンとして 1 回 1000mg/m2 を 30 分かけ					
要望内	(要望する用法・用量	て点滴静注し、週1回投与を3週連続し、4週目は					
容	について記載する。)	休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。					
		□ 小児に関する要望					
	(該当する場合はチェ	(特記事項等)					
	ックする。)	(17 He 3 / 7 / 7 /					
「医療	1. 適応疾病の重篤	<u>. </u>					
上の必	▼ア 生命に重大な影響がある疾患(致死的な疾患)						
要性に	□イ 病気の進行が不可逆的で、日常生活に著しい影響を及ぼす疾患						

係る 基 □ ウ その他日常生活に著しい影響を及ぼす疾患

準|への

該当性 (該当す るものに チェック し、該当 すると考 えた根拠 について 記載す る。)

(上記の基準に該当すると考えた根拠)

悪性リンパ腫は大きくホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に分けられるが、相 方の病型とも一般的に化学療法の感受性が高く、初回の寛解導入にて70%以上の症 例が完全寛解となり、長期生存症例も約50%程度に認められる。しかし、当該疾患 が再発した場合(または初回寛解導入療法が不成功であった場合)は、非常に難治 性となることが多い。救援化学療法にて再寛解導入を行うことが一般的である。し かし、救援化学療法の奏効率も約70%を示すが、長期に寛解を維持することは困難 であり、再発・難治症例は致死的な経過をたどることになることが多い。より有効 な救援化学療法の開発が急務である。

- 2. 医療上の有用性
- ▼ア 既存の療法が国内にない
- □イ 欧米等の臨床試験において有効性・安全性等が既存の療法と比べて明らかに優れている
- ウ 欧米等において標準的療法に位置づけられており、国内外の医 ☑ 療環境の違い等を踏まえても国内における有用性が期待できると 考えられる

(上記の基準に該当すると考えた根拠)

ア 既存の療法が国内にない

悪性リンパ腫は化学療法の有効性が高いが、初回治療からの再発および治療抵 抗性症例の治療効果は十分ではない。悪性リンパ腫の病系にもよるが、初回寛 解導入療法はアンスラサイクリン(アドリアシン)を中心とした治療法が選択 される(ホジキンリンパ腫:ABVD療法、非ホジキンリンパ腫:CHOP療法。 再発治療(以下、救援化学療法)においては、初回寛解導入と交叉耐性が少な い治療薬が選択される。その重要な治療薬の種類として代謝拮抗剤がある。 本邦において代謝拮抗剤として悪性リンパ腫に適応が承認されている薬剤は以

下のものがある。

葉酸拮抗剤:メソトレキサート

プリン拮抗剤:フルダラビン、クラドリビン、デオキシコルホマイシン

ピリミジン拮抗剤:シタラビン大量

今回申請するゲムシタビンはピリミジン拮抗剤の 1 種である。ゲムシタビンは 同じピリミジン拮抗剤のシタラビンと比べ強く細胞のアポトーシスを誘導する ことや dNTP プールの枯渇を導くなどの作用機序の違いがあり、より高い効果 が期待される。

また、本邦ではシタラビンは悪性リンパ腫に対して大量療法の適応のみとなっ

ている。この治療法は有効であるが、極めて有害事象が多いため、高齢者への 使用は非常に困難を伴う。

このことから現在、悪性リンパ腫に対して通常量で使用可能なピリミジン拮抗 剤の本邦での承認薬はない状態であり、海外で広く悪性リンパ腫の救援化学療 法として用いられている、ピリミジン拮抗剤のゲムシタビンは国内での代替え できる既存療法が存在しないと考えられる。

ウ 欧米等において標準的療法に位置づけられており、国内外の医療環境の違いを踏まえても国内における有用性が期待できる。

ゲムシタビンは欧米等 6 カ国での悪性リンパ腫に対して承認は受けていいない。しかし、後述のように各種ガイドライ・教科書に記載があり、悪性リンパ腫の救援化学療法として標準的に用いられている。ゲムシタビンは他抗悪性腫瘍剤と併用されるが、有害事象は注意深い専門家の観察・治療により対処が可能である。

- 1	/=	#	===
Λ	ш	ш	\overline{z}
-	1	₽ 1	\rightarrow

2. 要望内容に係る欧米での承認等の状況

欧米等6か国での承認状	□米国	□英国□独	国 口仏国	□加国	□豪州			
況	〔欧米	等6か国での承認内容〕						
(該当国にチ		欧米各国での承認内容(要望内容に関連する箇所に下線)						
ェックし、該当 国の承認内容	米国	販売名(企業名)						
を記載する。)		効能・効果						
		用法・用量						
		備考						
	英国	販売名(企業名)						
		効能・効果						
		用法・用量						
		備考						
	独国	販売名(企業名)						
		効能・効果						
		用法・用量						
		備考						
	仏国	販売名(企業名)						
		効能・効果						

		用法・用量			
		備考			
	加国 販売名(企業名))		
		効能・効果			
		用法・用量			
		備考			
	豪国	販売名(企業名)		
		効能・効果			
		用法・用量			
		備考			
欧米等6か 国での標準	▼ 米国	▼ 英国 「	独国 口仏国 口加国 口豪州		
的使用状況	〔欧米	等 6 か国での標	[準的使用内容]		
(<u>欧米等</u> 6 <u>か国</u> で要望内容に		欧米各国での標	準的使用内容(要望内容に関連する箇所に下線)		
関する承認が	米国	ガイドライン	NCCN ガイドライン ver 2. 2011		
ない適応外薬		名			
<u>についてのみ</u> 、 該当国にチェ		効能・効果	ホジキンリンパ腫		
ックし、該当国		(または効能・効 果に関連のある	Principles of second line chemotherapy		
の標準的使用 内容を記載す		記載箇所)	The selection of second line chemotherapy regimens		
る。)			depends on the pattern of relapse and the agents		
			previously used.		
			ICE (ifosfamide, carboplatin, etoposide)		
			C-MOPP(cyclophosphamide, vincristine, procarbazine,		
			predonisone)		
			ChIVPP(chlorambucil, vinblastine, procarbazine,		
			predonisone) DHAP(dexamethasone, cisplatin, high-dose cytarabine)		
			ESHAP (etoposide, methylpredonisolone, high-dose		
			cytarabine, cisplatin)		
		GVD(gemcitabine, vinorelbine, liposomal			
			doxorubicin)(1)		
			IGEV(ifosfamide, gemcitabine, vinoreline)(2)		
			Mini-BEAM(carmustine, cytarabine, etoposide,		
			melpharan)		
			MINE(etoposide, ifosfamide, mesna, mitoxantrone)		
			VIM-D(etoposide, ifosfamide, mitoxantrone,		

dexamethasone) **GCD**(**gemcitabine**, carboplatin, dexamethasone)(3) 非ホジキンリンパ腫 Suggested treatment regimens(in alphabetical order) Second line therapy (for patients with intention to proceed to high dose therapy with autologous stem cell rescue) DHAP(dexamethasone, cisplatin, high-dose cytarabine) + rituximab ESHAP (etoposide, methylpredonisolone, high-dose cytarabine, cisplatin) + rituximab <u>GDP(gemcitabine</u>, dexamethasone, cisplatin) <u>+</u> rituximab(4) **GemOx**(**gemcitabine**, oxaliplatin) + rituximab(5) ICE (ifosfamide, carboplatin, etoposide) <u>+</u> rituximab MINE(etoposide, ifosfamide, mesna, mitoxantrone) + rituximab Second line therapy (non candidate for high dose therapy) CEPP(cyclophosphamide, etoposide, predonisone, procarbazine) + rituximab DA-EPOCH + rituximab CEOP (cyclophosphamide, etoposide, vincristine, predonisone) + rituximab $\underline{\mathbf{GDP}} + \mathrm{rituximab}(4)$ $\underline{\text{GemOx}} + \text{rituximab}(5)$ Lenalidomide + rituximab Rituximab 各レジメンは他剤と併用 用法・用量 (または用法・用 Gemcitabine の用量 量に関連のある GDP: 1000mg/m2 day 1 and 8 every 21 days 記載箇所) IGEV: 800mg/m2 day 1 and 4 every 21days GCD: 1000mg/m2 day 1 and 8 every 21 days GDP+ rituximab: 1000mg/m2 day 1 and 8 every 21 days

	GemOx + rituximab: 1000mg/m2 every 15 days
ガイドラインの	
根拠論文	Friedberg JW, Johnson KB, van Besien K, et al.
	Gemcitabine, vinorelbine, and pegylated liposomal
	doxorubicin (GVD), a salvage regimen in relapsed
	Hodgkin's lymphoma: CALGB 59804. Ann Oncol. 2007 Jun;18(6):1071-9.
	2. Santoro A, Magagnoli M, Spina M, Pinotti
	G, Siracusano L, Michieli M, et al. Ifosfamide,
	gemcitabine, and vinorelbine: a new induction
	regimen for refractory and relapsed Hodgkin's
	lymphoma. Haematologica. 2007 Jan;92(1):35-41.
	3. Gopal AK, Press OW, Shustov AR,
	Petersdorf SH, Gooley TA, Daniels JT, et al.
	Efficacy and safety of gemcitabine, carboplatin,
	dexamethasone, and rituximab in patients with
	relapsed/refractory lymphoma: a prospective
	multi-center phase II study by the Puget Sound
	Oncology Consortium. Leuk Lymphoma. 2010
	Aug;51(8):1523-9.
	4. Crump M, Baetz T, Couban S, Belch A,
	Marcellus D, Howson-Jan K, et al. Gemcitabine,
	dexamethasone, and cisplatin in patients with
	recurrent or refractory aggressive histology B-cell
	non-Hodgkin lymphoma: a Phase II study by the
	National Cancer Institute of Canada Clinical Trials
	Group (NCIC-CTG). Cancer. 2004 Oct
	15;101(8):1835-42.
	5. Lopez A, Gutierrez A, Palacios A, Blancas
	I, Navarrete M, Morey M, et al. GEMOX-R regimen
	is a highly effective salvage regimen in patients
	with refractory/relapsing diffuse large-cell
	lymphoma: a phase II study. Eur J Haematol. 2008
	Feb;80(2):127-32.

	備考	
英国	ガイドライン	British committee standards for haematology
	名	
•	効能・効果	Guidelines for the Management of Mature T-cell
	(または効能・効	and NK-cell Neoplasms (Excluding cutaneous
	果に関連のある 記載箇所)	T-cell Lymphoma)
		Salvage chemotherapy for relapsed or refractory
		disease
		Re-induction or treatment of refractory disease is
		usually with combination chemotherapy. There are
		also a number of experimental agents that have
		shown promise and patients should be considered
		for inclusion in suitable clinical trials where
		available. There are no data on which to base the
		choice of re-induction and the conventional
		approach is to use a platinum-based schedule,
		particularly when intending to consolidate with a
		transplant.
		There are emerging data of interest for other
		agents. <u>Gemcitabine</u> as a single agent in cutaneous
		and non-cutaneous T-cell lymphoma seems highly
		active in phase II studies. Studies of gemcitabine in
		combination with steroids and cisplatin (GEM-P)
		have yielded encouraging results in refractory
		patients (6).
	用法・用量	他剤と併用
	(または用法・用量に関連のある	Gemcitabine の用量
	記載箇所)	GEM-P: 800mg /m2 every 14 days
-		
	ガイドラインの	
	根拠論文	Pinter-Brown L, Hernandez L, Schiller G, Territo
		M, et al. Pilot study of fixed-infusion rate
		gemcitabine with Cisplatin and dexamethasone in
		patients with relapsed or refractory lymphoma.
		Clin Lymphoma. 2004 Jun;5(1):45-9.

	備考	
独国	ガイドライン	
	名	
	効能・効果	
	(または効	
	能・効果に関 連のある記載	
	箇所)	
	用法·用量	
	(または用法・用	
	量に関連のある 記載箇所)	
	ガイドラインの	
	根拠論文	
	備考	
仏国	ガイドライン	
	名	
	効能・効果	
	(または効能・効 果に関連のある	
	記載箇所)	
	用法・用量	
	(または用法・用 量に関連のある	
	記載箇所)	
	ガイドラインの	
	根拠論文	
	備考	
加国	ガイドライン	
	名	
	効能・効果	
	(または効能・	
	効果に関連のあ	
	る記載箇所)	
	用法・用量	
	(または用法・	
	用量に関連のあ	
	る記載箇所)	
	ガイドライン	

	の根拠論文	
	備考	
豪州	ガイドライン	
	名	
	効能・効果	
	(または効能・	
	効果に関連のあ	
	る記載箇所)	
	用法・用量	
	(または用法・	
	用量に関連のあ	
	る記載箇所)	
	ガイドライン	
	の根拠論文	
	備考	

- 3. 要望内容に係る国内外の公表文献・成書等について
 - (1) 無作為化比較試験、薬物動態試験等に係る公表文献としての報告状況

< 文献の検索方法 (検索式や検索時期等)、検索結果、文献・成書等の選定理由の 概略等>

1) PubMed にて gemcitabine を key word として検索した。1988 年から 2011 年までに 7899 論文が検索された。また gemcitabine と lymphoma の 2 単語で検索したところ 1991 年から 2011 年までに 234 論文が検索された。その中で Gemcitabine 単独の治療成績または本邦で現在悪性リンパ腫に使用可能な化学療剤との併用療法について記載する。参考として本邦での未承認薬との併用療法および今回の申請の効能・効果にはない初回寛解導入療法への組入れも記載する。また、無作為化試験の報告はこれまでなされていないため、今回記載する論文はすべて single arm phase II である。また、各試験への登録は最低 10 症例の組み入れがあるものを選択した。また、Amercan society of Hematology (ASH)、American Society of Clinical Oncology (ASCO)の年次総会で発表された抄録は注目すべき抄録は報告状況として記載する(参考文献一覧には未記載)。

教科書においては、がん診療一般に広く用いられている"Cancer, principles and practice of oncology, 9th edition, edited by DeVita VT et al."、血液学で広く用いられている"Hematology, basic principles and practice, 5th edition、edited by Hoffman R et al."と血液学・腫瘍学に就いているほとん

どの医師・研究者が用いる非常に信頼性の高いものを選定した。

2) 悪性リンパ腫に対する Gemcitabine 単剤の評価

Venkatesh et al. Clin Lymp 2004 (7)

再発・治療抵抗性ホジキンリンパ腫 29 症例を対象、Gemcitabine 単剤にて治療(最初の 8 例は 1250mg/m2 day 1, 8, 15, every 28days, その後は 1000mg/m2 day 1, 8, every 28days に減量)。全奏効率 22%

Santro et al. J Clin Oncol 2000 (8)

再発・治療抵抗性ホジキンリンパ腫 23 症例を対象、Gemcitabine 単剤にて 治療(1250mg/m2 day 1, 8, 15, every 28days)。全奏効率 39%。

Zinzani et al. Haematol 2000 (9)

再発ホジキンリンパ腫 14 症例を対象、Gemcitabine 単剤にて治療 (1200mg/m2 day 1, 8, 15, every 28days)。全奏効率 43%。

Zinzani et al. J Clin Oncol 2000 (10)

再発・難治性 cutaneous T cell lymphoma 44 症例を対象、Gemcitabine 単剤にて治療(1200mg/m2 day 1, 8, 15, every 28days)。全奏効率 71%

上記に示すように単剤での再発のリンパ腫に対する報告はホジキン CTCL に対して行われている。少数例ではあるが、単剤での有効性は確認されている状況である。これにより再発悪性リンパ腫に対して gemcitabine を含む多剤併用療法の開発へ展開することになった。

3) ホジキンリンパ腫に対する Gemcitabine の併用療法

Cisplatin との併用

Todd et al. Ann Hematol 2009 (11)

再発ホジキンリンパ腫 17 症例を対象、Gemcitabine(1000mg/m2, day1,8, 15)+Cisplatin (75mg/m2 day 1)+ Dexamethasone (20mg day 1-4) every 28days。全奏効率 94%。

Baetz et al. Ann Oncol 2003 (12)

再発ホジキンリンパ腫 23 症例を対象、Gemcitabine(1000mg/m2, day1,8)+Cisplatin (75mg/m2 day 1)+ Dexamethasone (40mg day 1-4) every 21days。完全寛解率 69.5% (others SD)。

Czyz et al. ASH 2010

大量化学療法からの再発ホジキンリンパ腫 14 症例を対象、Gemcitabine(1000mg/m2, day1,8,15)+Cisplatin (100mg/m2 day 1)+Methylpredonisone (1000mg/m2 day 1-4) every 28days。一部 Vinorelbine を使用した症例を含むが、全奏効率 64%。

上記のように本邦においても再発悪性リンパ腫に使用可能な cisplatin と併用することにより再発ホジキンリンパ腫に高い有効率が認められている。

以下は参考として再発難治ホジキンリンパ腫において本邦での未承認薬と の併用試験及び初回寛解導入療法での使用の報告を記載する。

再発・難治症例

Vinorelbine との併用:

Arai et al. Biol Blood Marrow Trasnplant 2010 (13)

High dose chemotherapy の conditioning regimen として使用

Gemcitaibine+ Vinorelbine+ BCNU +VP16 +CPA

Bartlett et al. Ann Oncol 2007(1)

Gemcitabine + Vinorelbine+ Liposomal doxorubicin: 全奏効率 75%

Santro et al. Haematol 2007(2)

Gemcitabine + Ifosphamide + Vinorelbine + Predonisone: 全奏効 83%

Cole et al. J Clin Oncol (14)

Gemcitabine + Vinirelbine: 全奏効率 76%

Moskowitz et al. ASH2008

Gemcitabine + Liposomal doxorubicin + Vinorelbine: 完全奏効 52%

初回寛解導入、初発ホジキンリンパ腫:

Straus et al. Blood. 2011 (15)

Gemcitabine+ Doxorubicin + Vinblastine: 全奏効率 95%

Kostakougulu et al. ASH 2008

Gemcitabine+ Doxorubicin + Vinblastine: 全奏効率 96%

Boll et al ASH 2010

Predonisone+Vinblastine+Doxorubicine + gemcitabine: 全奏効率 81%

4) 非ホジキンリンパ腫に対する Gemcitabine の併用療法

Rituximab+ Mitoxantrone との併用

Garbo et al. Invest New Drugs 2009 (16)

再発難治性マントル細胞リンパ腫 16 例を対象、Gemcitabine (900mg/m2 day 1, 8) +Mitoxantrone (10mg/m2 day 1) +(Rituximab 375mg/m2 day 1) every 21days。全奏効率 47%、奏効期間中央値 7.9 か月。

Platinum agents との併用

Aviles et al. Oncology 2004 (17)

治療抵抗性 aggressive lymphoma 30 症例を対象、Gemcitabine (1500mg/m2 day 1, 8, 22, 29, 42, 49) + Cisplatin (50mg/m2 day 1, 8, 22, 29, 42, 49)。全奏効率 53%(完全寛解率 53%)。3 年全生存率 53%。

Crump et al. Cancer 2004 (4)

再発非ホジキンリンパ腫 53 例を対象、Gemcitabine (1000mg/m2 day 1, 8, 15)+ Cisplatin (75mg/m2 day1) +Dexamethasone (40mg day1-4)。全奏効率 49%

Ng et al Br J Cancer 2005(18)

再発悪性リンパ腫(ホジキンリンパ腫 17 例、B 細胞性リンパ腫 16 例、T 細胞性リンパ腫 6 例)を対象、Gemcitabine (1000mg/m2 day 1, 8)+ Cisplatin (100mg/m2 day 15) + Mehylpredonisone (1000mg day 1-5)。全奏効 79%。

Gopal et al ASH 2008

再発難治性リンパ腫(ホジキンリンパ腫 14 例、B cell lymphoma 37 例)を対象、CD20 陽性症例は Rituximab を併用。Gemcitabine (1000mg/m2 day 1, 8)+ Carboplatin (AUC5 day1) +Dexamethasone (40mg day1-4)。全奏効率 67%

Morschhauser et al Ann Oncol 2007 (19)

再発・難治性マントル細胞リンパ腫に対する無作為第 2 相割り付け試験。 Gemcitabine(1000mg/m2 day 1, 8)+ Cisplatin(100mg/m2 day1)+ Dexamethasone(40mg day1-4) 対 Gemcitabine(1000mg/m2 day 1, 8)+ Dexamethasone(40mg day1-4)の randomize。12 例対 18 例。全奏効率 36.4% 対 44.4%。

Waters et al. ASCO 2004

再発難治性悪性リンパ腫(42 例) (ホジキンリンパ腫 16 例、非ホジキンリンパ腫 26 例) を対象、Gemcitabine (1000mg/m2 day 1, 8, 15, 28)+ Cisplatin (100mg/m2 day15) +Mehylpredonisone (1000mg day1-5)。全奏効 76%。

Emmanouilides et al. Clin Lymphoma 2004 (6)

治療抵抗性非ホジキンリンパ腫 22 例を対象とし、Gemcitabine (800mg/m2 every 14days)+ Cisplatin (35mg/m2 day1) + Dexamethasone (20mg day1-4)。全奏効率 48%。

上記のように platinum 製剤を中心として各種化学療法剤との併用により難治性であるマントル細胞リンパ腫をはじめ他の非ホジキンリンパ腫に高い有効性が報告されている。

以下は参考として再発難治非ホジキンリンパ腫において本邦での未承認薬 との併用試験の報告を記載する。

Oxaliplatin との併用

Corazzelli et al. Cancer Chemother Pharmacol 2009 (20)

Gemcitabine +Oxaliplatin <u>+</u>Rituximab: 全奏効率 57% (-R), 78% (+R)

Cabanillas et al. ASCO 2008

Gemcitabine +Oxaliplatin +Rituximab: 全奏効率 81%

Lopez et al. Eur J Haematol 2008(5)

Gemcitabine +Oxaliplatin +Rituximab: 全奏効率 43%

El Gnaoui et al. Ann Oncol 2007 (21)

Gemcitabine +Oxaliplatin +Rituximab: 全奏効率 83%

Corazzelli et al. Ann Oncol 2006(22)

Gemcitabine +Oxaliplatin + Ifosophamide +Rituximab: 全奏効率 77%

Park et al. Invest New Drugs 2010 (23)

Gemcitabine +Oxaliplatin + Ifosophamide+Dexamethasone: 全奏効率 52%

Vinorelbine との併用

Papageorgiou et al. Euro J Haematol 2005 (24)

Gemcitabine +Vinorelbine: 全奏効率 50%

Pasricha et al. Cancer 2008 (25)

Gemcitabine +Vinorelbine +Dexamethasone: 全奏効率 39-77%

<海外における臨床試験等>(登録中)

- 1) Study With Rituximab-**Gemcitabine**/Oxaliplatin in Relapsed Indolent Lymphoma (R-GO).
 - German low grade lymphoma study group
- 2) Rituximab, **Gemcitabine**, and Vinorelbine in Treating Patients With Hodgkin Lymphoma That Has Relapsed or Not Responded to Treatment. University of Miami Sylvester Comprehensive Cancer Center
- 3) Comparison of Pixantrone + Rituximab With **Gemcitabine** + Rituximab in Patients With Aggressive B-cell Non-Hodgkin Lymphoma Who Have Relapsed After Therapy and Are Not Eligible for Stem Cell Transplant (PIX-R)

Cell Therapeutics

4) Bortezomib and **Gemcitabine** in Treating Patients With Relapsed B-Cell Non-Hodgkin Lymphoma.

City of Hope Medical Center

5) **Gemcitabine** Hydrochloride, Rituximab, Oxaliplatin, and Lenalidomide in Treating Patients With Relapsed or Refractory, Aggressive Non-Hodgkin Lymphoma.

NCI

6) **Gemcitabine** and Pemetrexed Disodium in Treating Patients With Advanced Mycosis Fungoides or Sézary Syndrome.

Northwestern University

7) Comparison of Two Salvage Chemotherapy Regimens Before Autologous Stem Cell Transplantation With or Without Maintenance Rituximab in Treating Patients With Relapsed or Refractory Aggressive Non-Hodgkin's Lymphoma (containig **R-GDP** regimen).

NCIC clinical trial group

- 8) Observation or Lenalidomide in Treating Patients Who Are in Complete or Partial Response After Receiving **Gemcitabine** Hydrochloride or Doxorubicin Hydrochloride Liposome for Stage IIB, Stage III, or Stage IV Cutaneous T-Cell Lymphoma or Mycosis Fungoides/Sézary Syndrome NCI
- 9) Study Evaluating Chemotherapy in Combination With Inotuzumab Ozogamicin In Subjects With Non-Hodgkin's Lymphoma (containig R-GDP regimen)

Pfizer

- 1 0) A Study to Determine the Efficacy of Lenalidomide Versus Investigator Choice in Patients With Relapsed or Refractory Mantle Cell Lymphoma (MCL) (Sprint) (containing **Gemicitabine** alone arm) Celgene Corporation
- 1 1) A Study Of Inotuzumab Ozogamicin Plus Rituximab For Relapsed/Refractory Aggressive Non-Hodgkin Lymphoma Patients Who Are Not Candidates For Intensive High-Dose Chemotherapy (containing Rituximab + Gemcitabine arm)

Pfizer

1 2) Vorinostat With **Gemcitabine**, Busulfan, and Melphalan With Stem Cell Transplant (SCT) in Relapsed or Refractory Lymphoid Malignancies M.D. Anderson Cancer Center 1 3) Study of Lenalidomide to Evaluate Safety and Effectiveness in Patients With Diffuse Large B Cell Lymphoma (containing **Gemicitabine** alone arm)

Celgene Corporation

- 1 4) Study of RAD001 in Patients With Relapsed/Refractory Hodgkin Lymphoma That Has Progressed After High-dose Chemotherapy and Autologous Stem Cell Transplant and/or After **Gemcitabine** or Vinorelbine- or Vinblastine-based Treatment.

 Novartis
- 15) High-Dose **Gemcitabine**, Busulfan and Melphalan for Patients With Refactory Hodgkin's Disease M.D. Anderson Cancer Center
- 1 6) Study to Evaluate an Oxaliplatin-based Chemotherapy in Patients With Resistant or Relapsing Non-Hodgkin Lymphoma. (LNH-RGDOX)(Oxaliplatin + Gemicitabine +rituximab)

 Centre Hospitalier Universitaire de Sherbrooke
- 1 7) Three Different Therapy Regimens in Treating Patients With Previously Untreated Hodgkin Lymphoma (one arm containing **Gemcitabine**)
 GOELAMS
- 18) Treatment of Peripheral T-cell Lymphoma With Aggressive Induction Chemotherapy Followed by Autologous Stem Cell Transplant Using Denileukin Diftitox (Ontak) (one arm containing **Gemcitabine**) University of California, San Francisco
- 1 9) IGEV Followed by Autologous Transplantation for Refractory or Relapsed Hodgkin Lymphoma Fudan University

<日本における臨床試験等>

- 1)登録中および登録終了:なし
- (2) Peer-reviewed journal の総説、メタ・アナリシス等の報告状況
- 1) American Society of Hematology, Education program book (2009) Standard therapy of advanced Hodgkin lymphoma pp501

Table 2. Salvage chemotherapy in relapsed or refractory Hodgkin lymphoma の治療レジメンの記載で GDP(Gemcitabine +Cisplatin +Dexamethasone)、GVD(Gemcitabine +Vinorelbine +Dexamethasone)が

Dexa-BEAM,ICE などの救援化学療法と同列にて記載されている。

(3) 教科書等への標準的治療としての記載状況

<海外における教科書等>

1) Cancer, principles and practice of oncology, 9^{th} edition, edited by DeVita VT et al.

pp1842-1843

Treatment of Patients with Early or Late Relapse of Hodgkin Lymphoma

The question whether DHAP is the best induction regimen in relapsed Hodgkin lymphoma has not been answered in a randomized fashion. Other regimens used that show good antitumor activity in phase 2 trials include ICE (ifosfamide, carboplatin, etoposide) and IGEV (ifosfamide, gemcitabine, prednisolone, vinorelbine).

Table 126.13. Salvage protocols used for reinduction in relapsed Hodgkin lymphoma

Drug Dose Route Schedule Cycle Length						
DHAP				14–21 days		
Cisplatin	100 mg/m ²	IV	1			
Cytarabine (Ara-C)	2,000 mg/m ²	IV	12 q on day 2			
Prednisone	40 mg	IV	1-4			
IGEV				21 days		
Ifosphamide	2,000 mg/m ²	IV	1-4			
<u>Gemcitabine</u>	800 mg/m²	<u>IV</u>	<u>1 and 4</u>			
Vinorelbine	20 mg/m ²	IV	1			

Prednisone	100 mg	IV	1-4	
ICE				14 days
Ifosphamide	5,000 mg/m ²	IV	2	
Carboplatin	AUC5	IV	2	
Etoposide	100 mg/m ²	IV	1–3	

2) Hematology, basic principles and practice, 5th edition, edited by Hoffman R et al

Chaper 77, Hodgkin lymphoma: clinical manifestations, staging, and therapy

pp1264

Newer drugs active in Hodgkin lymphoma

Gemcitabine is a derivative of deoxycitidine and thus a pyrimidine antimetabolite with unique metabolic and mechanistic properties among the nucleoside analogs. Although structurally similar to differs cytarabine, gemcitabine pharmacokinetically and It pharmacologically. acts as competitive substrate for a incorporation into the DNA, where it leads to chain termination. Based on impressive results in solid tumors such as non-small cell lung cancer and pancreatic cancer, gemcitabine was given in a multicenter clinical phase II study to patients with multiple relapsed refractory ${
m HL}$ who had received at least chemotherapeutic regimens. Gemicitabine was administrated in a weekly schedule of 1250mg/m² on days 1, 8 and 15 of 28-days cycle. An interim analysis of this trial showed an overall response of 39%; of 23 patients, 2 had complete remissions, and 7 had partial remissions. Another 10 patients had stable disease. Myelosuppression was the main toxic side effects. In ongoing trials, classical chemotherapeutic drugs as well as novel compounds including antibodies are tested in various combinations with gemcitabine.

Chapter 85, Cutaneous T-cell lymphoma

pp1372

In a phase II trial of 44 patients with relapsed MF or peripheral T-cell lymphoma (unspecified), gemcitabine was administrated at 1200mg/m² over 30 minutes on 3 weekly administrations every 28 days. There were 5 (11.5%) complete remissions and 26(59%) partial responses (overall response rate 70.5%). The median duration of response ranged from 15 months for complete responders to 10 months for those patients with partial response. There appeared to be no difference in response type between patients with MF or peripheral T-cell lymphoma. The second trial at MD Anderson Cancer Center with **gemcitabine** administrated similarly but at a dose of 1000mg/m², investigators founda 68% overall response rate (17/25), with two patients developed a complete remission. Toxicity included myelosuppression in the major of patients and development of a hemolytic uremic syndrome in two elderly patients. Most recently gemcitabine was studied as a first-line systemic treatment in 27 patients with stage T3 or T4 MF/SS. The overall response rate wa 70% (19/27), with six complete remissions. The median time to progression was 10 months. Toxicity was generally mild.

<日本における教科書等>

1) なし

(4) 学会又は組織等の診療ガイドラインへの記載状況

<海外におけるガイドライン等>

- 1) 米国 **NCCN** ガイドライン
 - 2. 要望内容に係る欧米での承認等の状況での記載を参照
- 2) 英国 British committee standards for haematology)
 - 2. 要望内容に係る欧米での承認等の状況での記載を参照
- 3) ESMO (European Society of Medical Oncology) Clinical Practice Guideline

Hodgkin's lymphoma: ESMO Clinical Practice Guidelines for diagnosis, treatment and follow-up relapsed and refractory DLBCL Salvage regimens such as dexamethasone/high-dose ara-C/cisplatin (DHAP) or <u>ifosphamide/gemcitabine/vinorelbine/dexamethasone (IGEV)</u> (2) are given to reduce the tumour burden and mobilize stem cells before high-dose chemotherapy and ASCT.

Diffuse large B-cell non-Hodgkin's lymphoma: ESMO Clinical Practice Guidelines for diagnosis, treatment and follow-up relapsed and refractory DLBCL

Patients not suitable for high-dose therapy may be treated with the same or other salvage regimens such as **R-GEMOX** (rituximab, **gemcitabine**, oxaliplatin), which may be combined with involved-field radiotherapy(5).

用法容量

他剤と併用

Gemcitabineの用量IGEV: 800mg/m2 day 1 and 4 every 21daysR-GEMOX: 1000mg/m2 every 15 days

参考文献

- (2) Santoro A, Magagnoli M, Spina M, Pinotti G, Siracusano L, Michieli M, et al. Ifosfamide, gemcitabine, and vinorelbine: a new induction regimen for refractory and relapsed Hodgkin's lymphoma. Haematologica. 2007 Jan;92(1):35-41.
- (5) Lopez A, Gutierrez A, Palacios A, Blancas I, Navarrete M, Morey M, et al. GEMOX-R regimen is a highly effective salvage regimen in patients with refractory/relapsing diffuse large-cell lymphoma: a phase II study. Eur J Haematol. 2008 Feb;80(2):127-32.

<日本におけるガイドライン等>

- 1) なし
- (5) 要望内容に係る本邦での臨床試験成績及び臨床使用実態(上記(1)以外)について
 - 1) なし
 - (6) 上記の(1) から(5) を踏まえた要望の妥当性について

<要望効能・効果について>

- 1) 再発難治性のホジキンリンパ腫に対する救援化学療法
- 2) 再発難治性非ホジキンリンパ腫に対する救援化学療法

<要望用法・用量について>

1) ゲムシタビンとして1回1000mg/m²を30分かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続し、4週目は休薬する。これを1コースとして投与を繰り返す。欧米での単剤の臨床試験では1000-1250mg/m²で使用されており、再発・難治性悪性リンパ腫に20-70%の奏効率が報告されている。1000mg/m²の3週投与、1週休薬の方法は再発・難治性悪性リンパ腫において効果が十分期待できる投与法である。また、当用法・用量は本邦において非小細胞肺癌、膵臓癌などで承認されている用法・用量であり、実臨床での使用経験は多く、日本人における安全性が確立していると考えられる。当用法・用量は妥当性が高く、当学会として推奨出来る投与法である。

<臨床的位置づけについて>

- 1) 前述の海外での臨床試験からゲムシタビンの再発・難治性悪性リンパ腫に対する有用性は高いと考える。臨床腫瘍学、血液学の著名な教科書にも再発悪性リンパ腫の治療法として詳細に記載がある。臨床的に有望であることが証明されていると考える。
- 2) 悪性リンパ腫の救援化学療法は多くの治療法が確立されているが、初回 寛解導入と作用機序が異なる薬剤がその治療法に組み込まれる。ゲムシ タビンはピリミジン代謝拮抗剤として他に同様の作用機序をもつ薬剤 が存在しない(シタラビンはピリミジン拮抗剤であるが、作用機序は異 なる)。難治性悪性リンパ腫の治療戦略上、大変重要な位置を占めると 考えられる。
- 3) 欧米では多数の無作為割り付け臨床試験にてゲムシタビンが併用にて コントロール治療群、試験治療群に採用されている。このことからもゲ ムシタビンは今後の再発悪性リンパ腫の治療戦略上必須の薬剤である と考えられる。

4. 実施すべき試験の種類とその方法案

1) 本邦では膵臓癌を対象とした臨床第1相試験が実施されている。その後、 胆嚢癌における単剤の臨床第2試験、尿路上皮癌に対する単剤の臨床第2相試 験が施行され、それぞれに治療薬として承認されている。また、乳癌に関して はパクリタキセルとの併用療法の臨床第2相試験にて有効性と安全性が示さ れ、手術不能・再発乳癌に対する適応承認がされた。卵巣癌に対しては公知申 請にて承認されている(国内臨床試験は実施されていない)。 これら国内状況と、欧米 6 カ国でのリンパ腫における承認が得られていない状況を考慮し以下の臨床試験が行われることが望ましいと考える。

対象:再発・難治性ホジキンリンパ腫および非ホジキンリンパ腫

試験デザイン:単剤の臨床第2試験

Primary endpoint: 奏効率

Secondary endpoints: 安全性、無増悪生存期間、全生存期間 レジメン: ゲムシタビンとして 1 回 1000mg/m² を 30 分かけて点滴静注し、週 1 回投与を 3 週連続し、4 週目は休薬する。これを 1 コースとして投与を繰り 返す。

5. 備考

<その他>

1)

6. 参考文献一覧

- 1. Bartlett NL, Niedzwiecki D, Johnson JL, Friedberg JW, Johnson KB, van Besien K, et al. Gemcitabine, vinorelbine, and pegylated liposomal doxorubicin (GVD), a salvage regimen in relapsed Hodgkin's lymphoma: CALGB 59804. Ann Oncol. 2007 Jun;18(6):1071-9.
- 2. Santoro A, Magagnoli M, Spina M, Pinotti G, Siracusano L, Michieli M, et al. Ifosfamide, gemcitabine, and vinorelbine: a new induction regimen for refractory and relapsed Hodgkin's lymphoma. Haematologica. 2007 Jan;92(1):35-41.
- 3. Gopal AK, Press OW, Shustov AR, Petersdorf SH, Gooley TA, Daniels JT, et al. Efficacy and safety of gemcitabine, carboplatin, dexamethasone, and rituximab in patients with relapsed/refractory lymphoma: a prospective multi-center phase II study by the Puget Sound Oncology Consortium. Leuk Lymphoma. 2010 Aug;51(8):1523-9.
- 4. Crump M, Baetz T, Couban S, Belch A, Marcellus D, Howson-Jan K, et al. Gemcitabine, dexamethasone, and cisplatin in patients with recurrent or refractory aggressive histology B-cell non-Hodgkin lymphoma: a Phase II study by the National Cancer Institute of Canada Clinical Trials Group (NCIC-CTG). Cancer. 2004 Oct 15;101(8):1835-42.
- 5. Lopez A, Gutierrez A, Palacios A, Blancas I, Navarrete M, Morey M, et al. GEMOX-R regimen is a highly effective salvage regimen in patients with refractory/relapsing diffuse large-cell lymphoma: a phase II study. Eur J Haematol. 2008 Feb;80(2):127-32.

- 6. Emmanouilides C, Colovos C, Pinter-Brown L, Hernandez L, Schiller G, Territo M, et al. Pilot study of fixed-infusion rate gemcitabine with Cisplatin and dexamethasone in patients with relapsed or refractory lymphoma. Clin Lymphoma. 2004 Jun;5(1):45-9.
- 7. Venkatesh H, Di Bella N, Flynn TP, Vellek MJ, Boehm KA, Asmar L. Results of a phase II multicenter trial of single-agent gemcitabine in patients with relapsed or chemotherapy-refractory Hodgkin's lymphoma. Clin Lymphoma. 2004 Sep;5(2):110-5.
- 8. Santoro A, Bredenfeld H, Devizzi L, Tesch H, Bonfante V, Viviani S, et al. Gemcitabine in the treatment of refractory Hodgkin's disease: results of a multicenter phase II study. J Clin Oncol. 2000 Jul;18(13):2615-9.
- 9. Zinzani PL, Bendandi M, Stefoni V, Albertini P, Gherlinzoni F, Tani M, et al. Value of gemcitabine treatment in heavily pretreated Hodgkin's disease patients. Haematologica. 2000 Sep;85(9):926-9.
- 10. Zinzani PL, Baliva G, Magagnoli M, Bendandi M, Modugno G, Gherlinzoni F, et al. Gemcitabine treatment in pretreated cutaneous T-cell lymphoma: experience in 44 patients. J Clin Oncol. 2000 Jul;18(13):2603-6.
- 11. Todd T, Raj S, Camilleri D, Stafford G, Bulusu R, Follows G, et al. Intermediate dose gemcitabine-cisplatin combination chemotherapy without treatment delay for cytopenia followed by autografting--a new standard of care in relapsed or refractory Hodgkin lymphoma? Ann Hematol. 2009 Nov;88(11):1107-12.
- 12. Baetz T, Belch A, Couban S, Imrie K, Yau J, Myers R, et al. Gemcitabine, dexamethasone and cisplatin is an active and non-toxic chemotherapy regimen in relapsed or refractory Hodgkin's disease: a phase II study by the National Cancer Institute of Canada Clinical Trials Group. Ann Oncol. 2003 Dec;14(12):1762-7.
- 13. Arai S, Letsinger R, Wong RM, Johnston LJ, Laport GG, Lowsky R, et al. Phase I/II trial of GN-BVC, a gemcitabine and vinorelbine-containing conditioning regimen for autologous hematopoietic cell transplantation in recurrent and refractory hodgkin lymphoma. Biol Blood Marrow Transplant. 2010 Aug;16(8):1145-54.
- 14. Cole PD, Schwartz CL, Drachtman RA, de Alarcon PA, Chen L, Trippett TM. Phase II study of weekly gemcitabine and vinorelbine for children with recurrent or refractory Hodgkin's disease: a children's oncology group report. J Clin Oncol. 2009 Mar 20;27(9):1456-61.
- 15. Straus DJ, Johnson JL, LaCasce AS, Bartlett NL, Kostakoglu L, Hsi ED, et al. Doxorubicin, vinblastine, and gemcitabine (CALGB 50203) for stage I/II nonbulky Hodgkin lymphoma: pretreatment prognostic factors and interim PET. Blood. 2011 May 19;117(20):5314-20.
- 16. Garbo LE, Flynn PJ, MacRae MA, Rauch MA, Wang Y, Kolibaba KS. Results of a

Phase II trial of gemcitabine, mitoxantrone, and rituximab in relapsed or refractory mantle cell lymphoma. Invest New Drugs. 2009 Oct;27(5):476-81.

- 17. Aviles A, Neri N, Huerta-Guzman J, Fernandez R. Gemcitabine and cisplatin in refractory malignant lymphoma. Oncology. 2004;66(3):197-200.
- 18. Ng M, Waters J, Cunningham D, Chau I, Horwich A, Hill M, et al. Gemcitabine, cisplatin and methylprednisolone (GEM-P) is an effective salvage regimen in patients with relapsed and refractory lymphoma. Br J Cancer. 2005 Apr 25;92(8):1352-7.
- 19. Morschhauser F, Depil S, Jourdan E, Wetterwald M, Bouabdallah R, Marit G, et al. Phase II study of gemcitabine-dexamethasone with or without cisplatin in relapsed or refractory mantle cell lymphoma. Ann Oncol. 2007 Feb;18(2):370-5.
- 20. Corazzelli G, Capobianco G, Arcamone M, Ballerini PF, Iannitto E, Russo F, et al. Long-term results of gemcitabine plus oxaliplatin with and without rituximab as salvage treatment for transplant-ineligible patients with refractory/relapsing B-cell lymphoma. Cancer Chemother Pharmacol. 2009 Oct;64(5):907-16.
- 21. El Gnaoui T, Dupuis J, Belhadj K, Jais JP, Rahmouni A, Copie-Bergman C, et al. Rituximab, gemcitabine and oxaliplatin: an effective salvage regimen for patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma not candidates for high-dose therapy. Ann Oncol. 2007 Aug;18(8):1363-8.
- 22. Corazzelli G, Russo F, Capobianco G, Marcacci G, Della Cioppa P, Pinto A. Gemcitabine, ifosfamide, oxaliplatin and rituximab (R-GIFOX), a new effective cytoreductive/mobilizing salvage regimen for relapsed and refractory aggressive non-Hodgkin's lymphoma: results of a pilot study. Ann Oncol. 2006 May;17 Suppl 4:iv18-24.
- 23. Park BB, Kim WS, Eom HS, Kim JS, Lee YY, Oh SJ, et al. Salvage therapy with gemcitabine, ifosfamide, dexamethasone, and oxaliplatin (GIDOX) for B-cell non-Hodgkin's lymphoma: a consortium for improving survival of lymphoma (CISL) trial. Invest New Drugs. 2011 Feb;29(1):154-60.
- 24. Papageorgiou ES, Tsirigotis P, Dimopoulos M, Pavlidis N, Fountzilas G, Papageorgiou S, et al. Combination chemotherapy with gemcitabine and vinorelbine in the treatment of relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma: a phase-II trial by the Hellenic Cooperative Oncology Group. Eur J Haematol. 2005 Aug;75(2):124-9.
- 25. Pasricha SR, Grigg A, Catalano J, Leahy M, Underhill C, Arthur C, et al. A multicenter phase 2 study of risk-adjusted salvage chemotherapy incorporating vinorelbine and gemcitabine for relapsed and refractory lymphoma. Cancer. 2008 Dec 1;113(11):3192-8.